

# ご存じですか！文化財

## 「下総皖一肉筆楽譜」

市指定有形文化財  
平成22年2月1日指定

29



問合せ  
大利根教育事務所  
☎0480・72・1323



所在地 新川通680

下総皖一（本名は覚三）は明治31年3月31日に原道村砂原（現加須市）に生まれました。14歳までこの地で育ち、少年時代の覚三は、利根川や近くの田んぼ、小川などで元氣よく、自然を友として育ちました。

小学校を終え、埼玉師範学校から東京音楽学校（現東京芸術大学）に進み、首席で卒業、記念奨学賞を受賞しました。その後、幾つかの学校の教壇に立ち、昭和7年、文部省在学研究員としてドイツへの留学を命ぜられました。

留学中の努力により、多くのものを学んで帰国した皖一は、たかくさんの有名な曲を作り、「たなばたさま」、「野菊」などだけでは

なく、合唱曲、器楽曲、協奏曲、500を越える校歌などを残しました。また箏の曲、三味線の曲など日本の伝統音楽についても作曲し、西洋音楽と日本の音楽との橋渡しをしたと言われています。また、作曲法、対位法、和声などの音楽理論書を世に出し、和声学の神様と言われ、日本の近代音楽の基礎を作りました。

彼の功績を称え、歌唱曲472曲、校歌542曲、器楽曲69曲の楽曲数1、083曲の肉筆楽譜が市の指定文化財として指定されました。利根川堤防上で、土・日曜日、祝日に開館している『おおとね童謡のふる里室』には、多くの資料が展示公開され、親しまれています。



おおとね童謡のふる里室

紹介者 中島 睦雄さん（琴奇）